

晋州保健大学との交流プログラム実施報告

大西真由美¹・中尾理恵子¹

保健学研究 23(1): 31-35, 2011

(2010年9月28日受付)
(2010年11月24日受理)

はじめに

長崎大学医学部保健学科（以下、長崎大学保健学科）と晋州保健大学との交流は1995年から開始され、教員ならびに学生間の交流を続けている。2008年7月に、晋州保健大学から教員2名および学生19名を長崎大学医学部保健学科に受け入れた¹⁾。本来であれば、翌年の2009年8月頃に、長崎大学保健学科から晋州保健大学を訪問する予定であったが、新型インフルエンザの流行により、保健学科としては同時期の海外渡航を見送ることとした。従って、2010年に、あらためて長崎大学保健学科から晋州保健学科訪問について先方に打診し、受け入れられることとなった。2010年8月18日-20日の2泊3日間、教員2名および学生9名が晋州保健大学を訪問し、交流機会を持ったので報告する。

1. 訪問準備

晋州保健大学訪問にあたり、長崎大学保健学科は大西、晋州保健大学は崔鎔赫先生がメールを通じて日本語で連絡調整を行った。保健学科ならびに晋州保健大学双方にとって都合の良い時期ということで、2010年8月18日-20日に訪問することとなった。

6月18日に、保健学科学生に対し、掲示とメーリングリストにより、本交流プログラム参加の募集を行った。7月9日を参加申込締切とし、看護学専攻3年生4名、4年生5名の応募があった。4年生の1名は、2007年にも晋州保健大学を訪問した学生であった。

同時に引率教員の募集も行い、看護学専攻・中尾理恵子講師が参加することとなった。

表1. プログラム

	日時	内容	場所
8月18日(水)	11:50~13:30	入国手続, 昼食	釜山市内
	13:30~15:30	晋州へ移動	
	15:00~15:10	玄関での歓迎	
	15:10~15:30	歓迎挨拶, 自己紹介	大会議室
	15:30~16:00	キャンパス・ツアー (実習室, 図書館)	校内
	16:00~16:20	晋州城へ移動	
	16:20~18:00	晋州城, 晋州博物館観覧	晋州城
	18:00~18:20	歓迎会場へ移動	
	18:30~20:00	歓迎会	教職員食堂
	20:00	解散 (学生はホームステイ先へ)	
	20:00~21:30	教員は, 市内の伝統的喫茶店 (茶園)	
	21:30~22:30	川辺の夜景および噴水ショー観覧	
	22:30	解散 (教員はゲスト・ルームへ)	
	8月19日(木)	9:00	大学大会議室に集合
9:10~9:30		慶尚大学付属病院へ移動	
9:30~11:00		慶尚大学付属病院	慶尚大学付属病院
11:00~12:30		順天 (樂案邑城) へ移動	
12:30~13:30		昼食	樂案邑城
13:30~15:00		樂案邑城見学	樂案邑城
15:00~15:40		ドラマスタジオへ移動	
15:40~16:40		ドラマスタジオ見学	ドラマスタジオ
16:40~18:10		晋州へ移動	
18:10		解散 (学生はホームステイ先へ)	
18:20~20:20		夕食会 (教員)	晋州市内
8月20日(金)	8:00	大学玄関に集合	
	8:20~10:20	釜山 (海雲台) へ移動	
	10:20~14:30	釜山観光, 昼食, 釜山港へ移動	釜山市内
	14:30~15:30	出国手続	

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻

事前オリエンテーションは、授業等の関係で一度に全員が集まることができなかつたため、2回に分けて実施した。事前オリエンテーションでは、渡航時危機管理、保護者からの参加承諾書、海外旅行保険加入等について説明を行った。また、渡航準備として、必要に応じてパスポートの取得について指導した。

2. 交流の実際

1) 長崎－晋州移動

長崎と福岡港の移動は、専用バスを借り上げ、費用は参加者全員で折半した。福岡港と釜山港の移動はジェットフォイルを利用した。平日割引を利用することができ、往復で15,000円/人であった。その他、港使用料等の費用を含めて、28,000円/人を徴収した。

釜山港から晋州までは、晋州保健大学が準備したバスによって移動した。

2) 晋州保健大学との交流活動

晋州保健大学に到着後、晋州保健大学教員とホスト学生による歓迎式が行われた。金看護学科長からの挨拶、看護学科教員らの紹介、ホスト学生との対面の後、晋州保健大学構内の見学があった。大学内の実習室、図書室などの見学では、それぞれの担当教員からの説明を受けた。学内の見学後は、晋州市内にある晋州城などの市内見学が準備されており、崔先生に通訳をしていただきながら晋州市の歴史と文化について学んだ。大学に戻った後、歓迎夕食会が催され、看護学科教員、ホスト学生、長崎大学保健学科訪問団との楽しい交流会であった。

二日目の午前中は、晋州保健大学の看護学生の実習病院の一つである慶尚大学付属病院の見学を行った。救急外来部、感染症隔離病棟、ホスピス病棟、健診センター、放射線治療部の見学を大学病院看護部に案内していただいた。実際に患者のいる施設内を見学するため、学生たちは緊張感をもって臨んでいた。午後は、晋州保健大学が準備した専用バスで順天市の樂安邑城へ移動して昼食をいただき、韓国の歴史的な生活様式を見学した。その後は、ドラマスタジオの見学があり近代の韓国文化に触れることができた。

最終日は釜山への移動後、ジェットフォイルの出発まで自由行動として観光やショッピングの時間とした。交流の全プログラムに崔先生、看護学科の2名の教員、ホスト学生が同行しており、また専用バスでの移動であったため、食事の手配や移動もスムーズに行うことができた。崔先生は、プログラム中の様子の写真をとってCD-Rに入れてくださった(写真1, 2)。

活動の様子を交流プログラム中の写真を使い、保健学科からの参加学生有志により、交流プログラムを紹介する写真パネルならびにパワーポイントによる紹介プレゼンテーション資料として作成してもらった。



写真1. 慶尚大学附属病院のロビーにて



写真2. 晋州保健大学の实習室見学

3) 参加学生の感想(表2, 3)

本交流プログラムに参加した学生は、概ね満足した様子であった。参加前は、英語も韓国語もできないので、どのようにしてコミュニケーションを取るのかと不安に思っていた学生もいたようだが、実際には辞書や会話集等を駆使して、コミュニケーションを楽しんでいた様子が見え、参加学生からも2泊3日のスケジュールでは時間的に余裕がなかった点について指摘があったが、一方で、ホームステイは2泊でちょうどよかったといった意見もあった。ホームステイ先が水シャワーだったことや、毎日韓国料理が続くことについて不満だった学生もいたようだが、最終的には「良い経験だった」と感想を述べていた。ホームステイ先の両親が、平日は釜山に働きに行っているため、家族ぐるみの普段の生活を体験できなかったことについて残念がっていた学生もいた。

表2. 交流プログラム参加学生の参加前後の気持ちの変化

参加前	参加後	人数
積極的に参加したい	とてもよかった	1
積極的に参加したい	よかった	3
どちらかと言えば参加したい	とてもよかった	3
どちらかと言えば参加したい	よかった	1

表3. 交流プログラムに関する参加学生の意見・感想

1. 交流プログラムに参加してよかったこと、有意義だったこと	<ul style="list-style-type: none"> 初めての海外ということもあり、初めは大変不安だったが、韓国の学生と仲良くなり3日間一緒に行動したり、生活することで、互いの文化の違いに触れ、理解仕合いながら有意義な時間を過ごすことができた。 韓国の文化、歴史、習慣や礼儀（家族の在り方、上下関係の厳しさ等）、普段の家庭生活や家庭の味等、単なる観光旅行では経験できないことを経験できた。 ホームステイで学生や家族との関わりを多くもつことができた。 ホストとなった学生だけでなく、その家族や友達など、皆さんが大変歓迎して下さり、3日間とても楽しく過ごすことができた。とても歓迎されて嬉しかった。 コミュニケーション方法が英語しかなかったが、ジェスチャーを多用することで意志疎通を図ることができた。 コミュニケーションはほとんど英語で、はじめはなかなか通じないこともあったが、2日間行動を共にしていると、ぎこちない英語でもお互いの言いたいことが分かるようになった。 やはり英語は勉強しても使わないとダメだとあらためて思った。 病院見学や晋州城やドラマ撮影現場を見学することで、韓国の高度な医療施設や晋州の歴史的背景、人々の生活の様子を知ることができた。 大学内の見学・病院見学だけでなく、韓国の文化や歴史に触れられる機会も多く、貴重な経験となりました。 韓国のホストファミリーと仲良くなれただけでなく、（保健学科の）3年生とも仲良くなれてよかった。
2. 交流プログラムに参加して困ったこと	<ul style="list-style-type: none"> 2泊3日であったため、全体的に時間に余裕がなかった。 トイレや食事作法の違いに慣れることがなかなか難しかった。 学年が違ったため、看護や医療の話ができなかった。 伝えたいことがうまく伝わらず苦労した。でもそれはそれでよい経験になった。 最初に英語も韓国語もできなくてコミュニケーションに困った。 言葉の点で、上手く伝えられない、もしくは伝わらない場面があったが、電子辞書や韓日英語の本を使ってなんとかコミュニケーションをとることができました。 あまり家族の方とコミュニケーションできなかった。 シャワーが水だった。 韓国の家庭の生の文化にふれたかったが、若い子達の遊び（カラオケ、飲み会）になり日本的で残念だった。 ホストがずっとメールしたり電話したりして、正直疲れた。 突然、スケジュール変更になったときに日本人学生間の連絡方法がなかった。
3. 今後、改善した方がよいと思うこと	<ul style="list-style-type: none"> できれば韓国の授業風景を見てみたかった。学生が家に教科書などを置いておらず勉強の内容を知ることができなかったため、日本の看護の勉強との違いなどがよくわからなかった。 病院見学で施設案内だけでなく、韓国の看護師やその他医療者の仕事の様子や、日本の看護師やその他医療者と比較して、病院内での連携や待遇に違いがあるのか等、スタッフの働く様子も見学したかった。 ホストとなる韓国の学生も長崎大学の学生達も、将来、保健・医療に携わるものとして、医療や看護についてもっと話ができると有意義だと思った。日本と韓国の学生の医療や看護に関する知識に違いだけでなく学年による差があり、話しがうまく伝わらないことがあったので、同じ学年は無理でも、できるだけ近い学年と交流したかった。 少しの時間でよいので日本人学生同士の時間がほしかった。 フリータイムがもう少し欲しかった。 事前にどんなホストにお世話になるのか知っておきたい。 お湯のシャワーが出る家に泊めて欲しい。 門限を決めて欲しい。
4. その他	<ul style="list-style-type: none"> プログラムに参加してみて、相手のことを知りたいと思う気持ちがあれば、言葉があまり通じなくても理解しあうことができた。言葉が通じにくいからこそ、相手の表情などを細かく観察し、なんとか情報を得て理解しようと試みることもできたと思う。 ホームステイは2泊でちょうどよかった。 食べ物は口に合わない物が多かったが、たくさん韓国料理を知ることができてよかった。 韓国のIT技術や建物の規模などに日本よりも良いところがあって驚いた。 カルチャーショックも少々あったが、本当に良い勉強になりました。 初日は、歓迎会後、帰って寝たいとなかなか言えなかったため、疲れた。 来年は韓国からの訪問に、また参加したいと思った。

3. 今後の課題

1) 相手国内の移動と必要経費について

長崎大学が晋州保健大学を訪問する際には韓国側での経費を全て晋州保健大学が支出する、晋州保健大学が長崎大学保健学科を訪問する際には日本側での経費を全て長崎大学保健学科が支出するというようにしてはどうかという提案があった。具体的には、現在、長崎大学保健

学科が晋州保健大学を訪問する場合には、釜山港と晋州間の陸路移動（バス借り上げ）の費用は、晋州保健大学が支払っている。一方、晋州保健大学が長崎保健学科を訪問される場合には、福岡港と長崎間の陸路移動は、晋州保健大学で手配し、経費も晋州保健大学で負担してもらっている。晋州保健大学が長崎大学保健学科を訪問する際、必ず日本語ができる崔先生が同行される訳ではな

いので、日本（福岡）に到着したところから長崎大学保健学科で手配・経費負担をしてもらいたいという希望であった。実際、2008年に長崎大学保健学科を訪問された際には、日本語ができない教員2人が引率だったため、福岡と長崎間の移動に手間取ったとのことであった。持ち帰り、保健学科で検討したい旨を伝えた。

2) ホームステイについて

2008年に晋州保健大学が長崎大学保健学科を訪問した際は、ホームステイ先として、家族と同居している学生だけでなく、一人暮らししている学生の所に宿泊した学生もあり、一般の日本人家庭の生活を経験できず、残念だった。長崎大学保健学科では家族と同居している学生が少ないのか、との質問があった。晋州保健大学が受け入れをする場合は、家族と同居している学生の中からホームステイ先を選ぶようにしているが、長崎大学保健学科でもそのようにできないかとの申し入れがあった。それに対し、晋州保健大学は一学年300人の学生を抱えるが、長崎大学保健学科看護学専攻は一学年70人-80人であること、長崎県内出身者は多いが自宅から通学している学生は晋州保健大学程多い訳ではないので、全てのホームステイ先を家族と同居している学生宅にすることは困難である旨を伝えた。また、一人暮らししている学生の生活も、日本の学生生活の一端であるので、家族と同居している学生宅にステイした学生と、生活の様子を共有していただいて、様々なタイプの学生の生活があることを経験したり、学んだりしていただければありがたい旨を伝えた。

3) 実施時期について

2008年の晋州保健大学の長崎大学保健学科訪問の際は、長崎大学保健学科の学生が試験前あるいは実習中であったため、ホームステイ先の確保が難しく、教職員のお宅に宿泊させていただいた学生もおり、そのことは大変感謝している。今後、長崎大学保健学科を訪問する際、参加者の人数を制限したり、訪問時期を考慮する必要があるか、との質問があった。実際、晋州保健大学としては、長崎を訪問したい学生はとて多いのが現状であり、もし参加者が多すぎるようであれば教えてほしいとのことであった。それに対し、1回に受け入れる学生数としては、2008年受け入れの20人（結果的には19人になった）が最大であり、それ以上は長崎大学保健学科としては対応が困難である旨を伝えた。また、7月から8月初旬は前期が終了する時期で、試験や課題が多いため、もし晋州保健大学が夏休みに入る6月下旬に来長していただければ、

長崎大学保健学科学生も勉強とのバランスも取りやすいこと、夏休み中（8-9月）は、実家に帰省する学生も多いので、長崎市内でホームステイ先を確保するためには長期休暇中でない方が調整しやすいこと、一方、長崎大学保健学科から晋州保健大学を訪問する際には、夏休み期間中の方が、学生は参加しやすいことを伝えた。

4) カリキュラムとしての交流内容の整理

長崎大学保健学科からは、現在、カリキュラムが切り替わる時期で、今後、晋州保健大学との交流プログラムも含めて、国際看護学に係る実習について内容を整備しているところであることを伝えた。次回（2012年）、晋州保健大学を訪問する際には、参加学生は希望して、課題レポート提出などの条件を満たせば、国際看護学実習として単位認定できるようになること、については文化交流の部分だけではなく、保健医療制度や看護（教育）制度について比較検討する部分も強化したいと考えており、プログラム内容として市内見学・文化視察や自由時間が少なくなっても構わないので、病院・施設見学や、晋州保健大学の教員による講義や学生とのディスカッションの時間を増やしていただく可能性について質問した。それに対し、晋州保健大学からは、対応できるように努力したいとの回答を得た。また、今回は、2泊3日と期間が短く、あわただしかったので、できればいつも通り3泊4日のプログラムにさせていただきたいとの意見があった。

5) 学術交流について

共同研究については、今回は、長崎大学保健学科からも晋州保健大学からも特定の研究テーマについてディスカッションする準備はしなかったが、今後も引き続き、お互いの関心・必要性に応じて、機会があれば共同研究の可能性を探っていくこととした。

本交流プログラムが双方の異文化理解を深める機会となり、更に発展することを期待する。

謝辞

本交流プログラム実施にあたり、長崎大学医学部保健学科教育研究委員会ならびに教職員の皆様にご支援・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

<文献>

- 1) 大西真由美, 中尾理恵子, 森藤香奈子, 山口智美, 横尾誠一, 折口智樹, 菊池泰樹, 中島久良. 晋州保健大学との交流プログラム実施報告. 保健学研究, 21: 93-98, 2009.

Exchange program between Jinju Health College and Nagasaki University

Mayumi ONISHI¹, Rieko NAKAO¹

1 Department of Health Sciences, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

Received 28 September 2010

Accepted 24 November 2010